

「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ21号

2018年12月



ルリタテハ（タテハチョウ科）と柿

目次

- 1. 11月の活動報告 2～3
- 2. ムシプロだより 4
- 3. 自然の楽しみ方（晩秋・初冬） 5
- 4. 事務局より 6
- 今月の表紙 6

1. 11月24日（土）の活動報告

スタッフ2名を含む12名が参加しました。

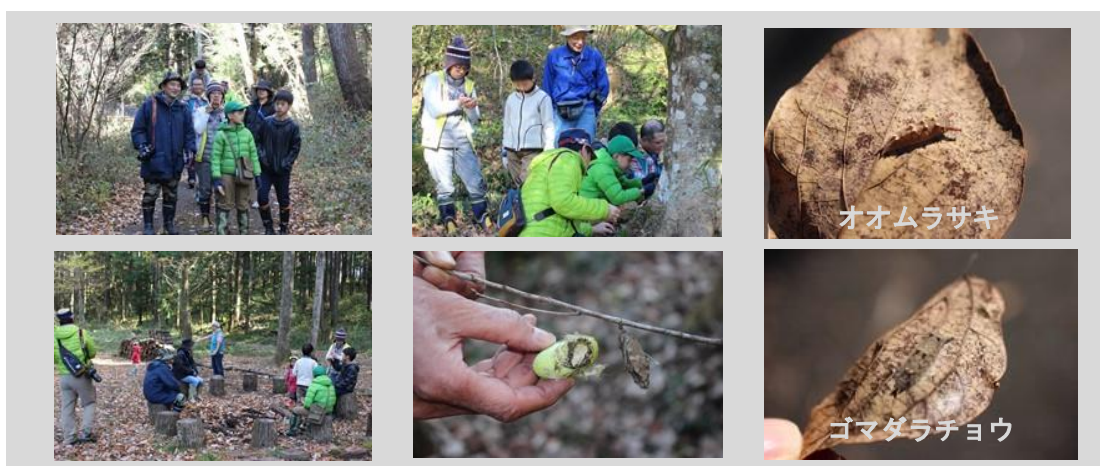
晩秋の雑木林を散策し冬の生き物観察とエコストーブで昼食をつくりました。

■ 冬の生き物観察

午前：コナラ広場と広葉樹再生林、みさおさんの庭

午後：庄屋の雑木林

ミノムシ、ヤママユの繭、クワガタの幼虫、オオムラサキの幼虫、ゴマダラチョウの幼虫を観察しました。



■ エコストーブで昼食づくり

昼食を、エコストーブを使って作りました。メニューは、カレーで具から調理しました。たっぷり歩いた後なのでとてもお腹が空いていて、出来上がったカレーを夢中で食べました。ご飯もカレーも完食しました。



■ おさらい

オオムラサキの幼虫、ゴマダラチョウの幼虫の見分け方

オオムラサキとゴマダラチョウは、タテハチョウの仲間です。どちらも成虫は樹液に集まり、幼虫は、エノキの葉を食べて育ちます。幼虫で冬を越し、落ち葉にくっつき、エノキの根元で春を待つことも同じです。

| | オオムラサキ | ゴマダラチョウ |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 成虫 |  年1回（7月）発生 |  年2回（5月、7月）発生 |
| 幼虫 （二本の角がありよく似ていますが見分け方は簡単です） |  |  |
| 突起の数 | 4列 | 3列 |
| 大きさ | 10ミリ前後（3齢） | 15ミリ前後（4齢） |
| その他 オオムラサキは、オスとメスで翅の色が違います。 ゴマダラチョウは、5月に羽化したものと7月に羽化したものでは、翅の模様が違います。 |  メス オスより一回り大きい、色は、紫色が薄く全体的に濃い茶色に見える。 |  ↑5月に羽化したもの  ↑7月に羽化したもの |

24日の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/BVsgXxWQhsu>

パスワード：20181124

2. ムシプロだより

蛾の見事な「擬態」を見て下さい。
形、模様、色の塗り分けなど不思議ですね、人間の想像を超えています。

熊谷 義昭

左) 11/10 アカエグリバ 小枝についた枯れ葉のようで見過ごすところでした。
右) 10/15 アケビの葉の中にアケビコノハがいました。



どこが頭かわかりません。



会報10号自然の楽しみ方にも登場しています。

西野 孝法

左) ホシヒメハウジャク ; 複雑な形、模様、横から見ると SF 映画に出てくる戦闘機のようなです。木や葉に止まっていたら見つけるのは困難ですね。

頭を下に下げている姿から「オレは木ですよ～、蛾じゃないよ～」と聞こえてきます。

右) キノカワガ ; 大きさは、約25ミリです。見事に木の幹に溶け込んでいました。



皆様からの投稿をお待ちしております。題材は自由です。
どんどん送って下さい。お待ちしております。

3. 自然の楽しみ方（晩秋・初冬）

● 実りの秋：柿の実食堂開店！

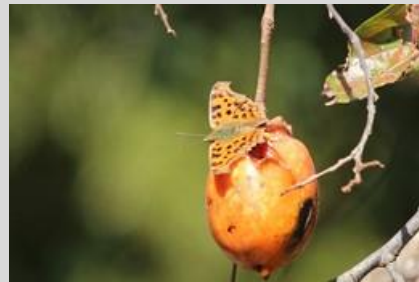
樹液酒場が閉店すると、果物食堂が次々と開店する。その代表が「柿の実食堂」だ。人間は、食用以外に渋を防腐剤にしたり、染料にしたり、葉で食べ物をくるむなど柿を多様に利用している。そんな柿を実に多くの生き物たちも利用している。おとぎ話（猿蟹合戦）の中では、カニも柿が大好きだ。

柿の木を見つけたら気長に眺めてみよう、柿の熟した匂いに誘われて蝶がやってくるはずだ。蝶に出会えなくても柿の美しい紅葉と秋の柔らかい陽射しで日向ぼっこを愉しもう！

柿の実食堂を訪れる生き物たち



ルリタテハ



キタテハ



メジロ



ツグミ



アケビ食堂、むらさき色の
実が割れ、中の果実が見え
ている、おいしそう！



柿の紅葉
ムシ食い跡も美しい

4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年12月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙

ルリタテハ (タテハチョウ科)



「柿の実を訪れるタテハチョウ（ルリタテハ）」、私が秋を実感する光景の一つです。特に地面に落ちた柿ではなく、まだ枝についているものにこだわっているのです。

雑木林に行くと今年の柿の実りはどうであろうか？と必ず確認して、やがてタテハチョウが訪れる光景を想像して楽しみにしています。



10月21日、柿に木の横に座り待っていたところ撮影することができました。ルリタテハが去ると次にキタテハがやってきました。柿の実は、たくさんあるのになぜこの実なのかとても不思議でした。そして、この柿の実は、傷がついてこの傷から雫がしたり落ちていることがわかりました。



足元では「ヒオドシチョウ」と「キタテハ」が日向ぼっこをしていました。

(写真・文 西野 孝法)